支援と復興・交流

益城町復興計画

益城町寺迫住宅地被害 寺迫橋から文化会館を望む

被害が特に大きかった益城町では、平成28（2016）年12月に「益城町復興計画」を策定しました。

その後、住民が主体となって地区の現状にあわせた復旧・復興を進めるため、各地区において、まちづくり協議会を立ち上げました。

益城町中心付近に位置する寺迫地区のまちづくり協議会では、「地区をみんなで考えよう会」や役員会を重ね、「人と人、地区と地区が結び会うまち寺迫・下寺中灰塚～人々が集い、交流し、多世代の笑顔にあふれ、木山城址公園や県道熊本高森線を軸とした安全・安心な地区～」を復興まちづくり将来像として示しました。

益城町復興計画の基本理念
【くらし復興】住民生活の再建と安定
【復興まちづくり】災害に強いまちづくり
【産業復興】産業・経済の再生

展望所の設置

数流崩之碑（すがるくずれのひ）が

平成28年熊本地震で最大級の斜面崩壊「数鹿流崩れ（すがるくずれ）」が発生しました。その被害を後世に伝えるため、自然災害伝承碑「数鹿流崩之碑（すがるくずれのひ）」が設置されています。この展望所からは「崩落した旧阿蘇大橋の橋げた」、そして「新阿蘇大橋」の両方を望むことができます。

数鹿流崩れ工事完成記念碑

数鹿流崩れ工事完成記念碑
平成二十八年四月十六日、熊本・阿蘇地方を襲った最大震度七の大地震により、黒川右岸山頂付近より大規模山腹崩壊が発生。国道五七号、豊肥本線、国道三二五号阿蘇大橋が被災し、熊本と阿蘇を結ぶ交通が絶たれ、大学生一名の尊い命が奪われた。
被災翌月、国道轄砂防事業による復旧工事に着手し、最先端の無人化施工技術を用いた懸命の工事を経て、令和二年十月に工事が完成した。この大崩れを、震災の記憶と、険しい自然に対する人々の挑戦の歴史を語り継ぐ遺構として「数鹿流崩れ」と命名し、ここに記念碑を建立する。

引用：熊本災害デジタルアーカイブ